

令和3年度 いじめに関する報告書 年度末状況調査報告

生徒指導推進室

本調査は、令和3年度中に「いじめに関する報告書」を提出した学校のうち、「指導対応中」、「経過観察中」と報告した事案について、年度末にどのような状況になったかを追跡調査したものである。

1 小学校の状況

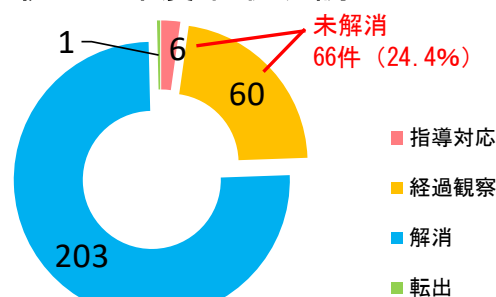
- 令和3年度の小学校におけるいじめの認知件数は、270件であった。
□本調査により解消の報告があったのは、203件(75.2%)である。
□今後も継続して指導対応や経過観察を行うケースは66件(24.4%)である。

認知件数	対応状況	対応件数	割合
R3年度 小学校 270 件	未 解 消	指導対応	66 24.4%
		経過観察	6 2.2%
	解 消	経過観察	60 22.2%
		解消	203 75.2%
	転出	1	0.4%

◆未解消の主な理由◆

- ・学級内で軽微なトラブルがあり、現在も指導を継続中。
- ・加害児童が突発的に被害児童を攻撃する傾向があるため。
- ・トラブルはないが、被害児童本人や保護者が加害児童との関わりを心配しているため。
- ・被害側の不安は解消したが、3ヶ月間見守る必要があるため。

小学校 R3年度末 状況調査



2 中学校の状況

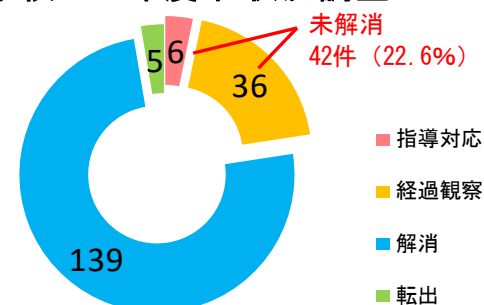
- 令和3年度の中学校におけるいじめの認知件数は、186件であった。
□本調査により解消の報告があったのは、139件(74.7%)である。
□今後も継続して指導対応や経過観察を行うケースは42件(22.6%)である。

認知件数	対応状況	対応件数	割合
R3年度 中学校 186 件	未 解 消	指導対応	42 22.6%
		経過観察	6 3.2%
	解 消	経過観察	36 19.4%
		解消	139 74.7%
	転出	5	2.7%

◆未解消の主な理由◆

- ・加害生徒に落ち着かない面があり、現在も指導対応中である。
- ・加害生徒が暴力を肯定しており、見守りが必要である。
- ・加害生徒の被害生徒への関わり方に、いまだ気になる様子が見受けられるため。
- ・関係は安定しているが、被害本人・保護者に不安があるため。

中学校 R3年度末 状況調査



3 高等学校の状況

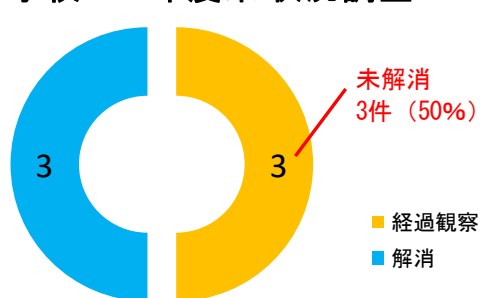
- 令和3年度の高等学校におけるいじめの認知件数は、6件であった。
□本調査により解消の報告があったのは、3件(50%)である。
□今後も継続して指導対応や経過観察を行うケースは3件(50%)である。

認知件数	対応状況	対応件数	割合
R3年度 高等学校 6 件	未 解 消	指導対応	3 50.0%
		経過観察	0 0.0%
	解 消	経過観察	3 50.0%
		解消	3 50.0%
	転出	0	0.0%

◆未解消の主な理由◆

- ・加害生徒のうち2名とは関係が解消したが、1名とは会話ができていないため。
- ・大きなトラブルは起きていないが、お互いに自然な関わりができていないため。

高等学校 R3年度末 状況調査



4 まとめ

【集計結果より】

- 令和3年度に小・中学校が認知したいじめの約 3/4（高等学校は半数）については、「解消した」と学校から報告があった。

【未解消の理由より】

- 学校はひとつひとつの事案について、被害児童生徒やその保護者の立場に寄り添いながら丁寧に調査し、いじめ防止基本方針に基づいた状況判断を行っていることがわかる。
□小・中学校では、特定の加害児童生徒への対応に学校が苦慮している状況が窺える。また、高等学校では、被害生徒と加害生徒の人間関係の修復に学校が気を配っていることがわかる。